

開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和5年1月20日（金） 9：25 ～ 11：10
開催場所	今治市立日高小学校
語り部	菊池 由貴子 （岩手県大槌町）
参加者	小学校5年生、自主防災会 102名
開催経緯	南海トラフ巨大地震による被害が想定されているが、自主防災会を中心とした地域防災への取組が十分に行われていない現状である。また、過去には南海地震による災害も経験しているが、年月が経過し、経験者の減少や高齢化から、子ども達への伝承活動が全く行われていない。そこで、子どもの頃から防災意識を高め、災害時に自分の命を守り、適切な行動をとることのできる力を育てていくことが課題となっている。
内容	<p>（1）はじめに</p> <p>私は岩手県の大槌町に住んでいる。大槌町は太平洋に面していて、岩手県三陸沿岸部のほぼ中央に位置している、自然豊かな町だ。古くから漁業が盛んで、町内を流れる川は山や森から栄養を海へと運び、湾内を豊かな漁場としてきた。また、沿岸部でありながら町の大部分を山林が占め、山の幸も豊富である。大槌川と小槌川に挟まれた平地が街の中心部となっていた。</p> <p>（2）東日本大震災とは</p> <p>2011年3月11日の午後2時46分に、東北地方でとても大きな地震があった。地震の大きさはマグニチュード9.0で、これは日本最大の大きさであり、世界でも4番目の大きさの地震だった。大槌町でも高さ10メートルを超える津波に襲われ、町の中心部の建物は次々と津波にのみこまれて壊滅してしまった。</p> <p>私は発災当時隣町の釜石市にいた。揺れがどんどん大きくなり、なかなか終わらず、とても長く感じたことを覚えている。揺れが治まったのち、私は車で大槌町の家に戻ろうとしたが、道路は渋滞しているし、電話はつながらない。そもそもどこに避難したらいいのかもわからず、海がどちら側にあるのかも特定できないまま車で移動していた。災害時には冷静になって避難することを求められていたが、私のようにパニックになってしまったり、本能で動いてしまったり、思考停止になってしまうケースも多い。また、自分の住む町の外で災害に合う可能性もある。最低限の基礎知識を身につけ、いろんな場面を日頃から想像し、シミュレーションするくせをつけていただきたい。また、家族にその日の行動や行き先を伝えておくと、万一の際は安心だ。</p> <p>（3）避難所生活を支えた大槌高校の生徒の自主的な活動</p> <p>津波をのがれた大槌高校には地震発生直後から町民が続々と集まり、震災当日の夜から8月上旬まで、避難所として利用された。校庭は自衛隊の駐留所となり、教室には銀行や病院が入り、高校全体がひとつの町のようになり避難者を支えた。大槌高校は全校生徒345人のうち6人が死亡または行方不明となっており、家族の行方が分からない生徒や、家を失った生徒も多かったが、大槌高校での避難所運営は、大槌高校生徒と教職員</p>

で行われた。40人前後の生徒たちが、自分たちがやらないとだめだと思って、話し合ったわけでもなく、初日から避難所の仕事を始めたのだ。避難者名簿の作成や、布団がわりの段ボールやカーテンの配布、トイレ用の水汲み、食事の配給、小さな子どもの遊び相手など、避難者の方々から必要とされたあらゆる役割を率先して行った。

(4) 防災とは

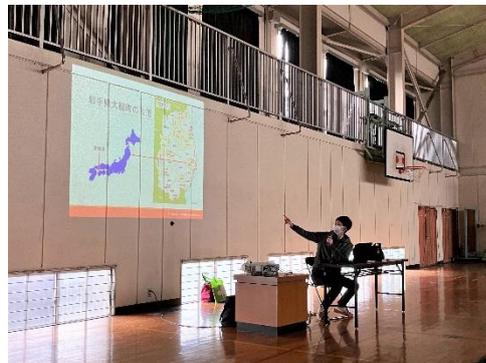
防災とは、災害に備えることだ。災害は必ずやってくるものだが、私たちはそれを止めることはできない。しかし、災害に備えることや、準備をすることはできる。防災で大事なことが3つあるので説明したい。

一つ目は訓練が大事ということである。東日本大震災の際には、中学生が小学生や保育園児の手を引いて高い所に避難した。これは普段からきちんと訓練を実施していたからできたことだ。野球やテニス、剣道をやっている人は、素振りの練習を必ず行う。防災のための訓練は素振りと一緒に、普段の訓練をしっかり行わないと、災害時にうまくいなくて苦労してしまう。

二つ目は「あたりまえのことに感謝する」ということだ。みんなは家族や友達が周りにいることが当たり前だと思っているが、このような当たり前の生活ができなくなってしまった人が、東日本大震災でたくさん発生したことを忘れてはならない。

三つ目は「命を大切に生きる」ということだ。生きたくても死んでしまった人がたくさんいる。辛くても悲しくても、命を大切に生きることがとても大切である。みんなには、自分の命、周りの命を大切に、よりよくなるために生きることを目指してほしい。

そして最後に、家族会議による避難場所、避難経路の確認を行うとともに、水や食料、日用品の備蓄は最低3日分、できれば1週間分確保してほしい。



開催地より

今日のお話しを受けて当校では、常に災害状況をイメージしながら行動する、より実効的な避難訓練の工夫と、家庭を巻き込んだ防災意識の向上（家族会議による避難場所、避難経路、防災グッズ、防災食などの災害への備え）に取り組み、地域と連携した防災教育の充実を目指していきたい。